

宝昌寺民間信仰石造物



〔指定年月日〕昭和六一年三月三十一日
 〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
 〔名称〕宝昌寺民間信仰石造物
 〔点数〕六基
 〔所有者等〕宝昌寺
 〔所在地等〕成田西三一三一三〇

宝昌寺民間信仰石造物

この石造物群は寛文三年（一六六三）から正徳三年（一七一一）の約半世紀の間に造立されたもので、庚申塔四基、如意輪観音一基、地藏菩薩一基である。現在は境内に点在しているが、当初から宝昌寺に建てられたものの他、近隣から移したものもある。

石塔のうちでも四基を数える庚申塔は、地藏菩薩を彫刻したもの、笠付のものなど、さまざまな形態やモチーフから次第に青面金剛が主体となってゆく庚申塔造形の経過や、坐像から立像へと青面金剛の様式は典型化されてゆく過程を示す興味ある作例となっている。

また、如意輪観音は願主名が「兵右衛門内方、勘右衛門内方」とあって、女性の造立を示している繊細優美な容姿である。

如意輪観音のほか、これらの石造物にはそれぞれ供養者名が刻まれており、旧成宗村尾崎の草分けともいえる家々の姓名を知る資料ともなっている。

この石造群は年代的にも近接しており、当時の本地域における信仰・習俗・社会構成を伝える大切な資料である。

【文化財所在地】

